いしのまき
水辺の緑のプロムナード計画（案）

平成 24 年 10 月

いしのまき水辺の緑のプロムナード計画懇談会

1　計画の策定にあたって

いしのまき水辺と緑のプロムナード計画は、旧北上川と石巻湾の水辺を活かして栄えた石巻湊を礎として、石巻が発展していったことを背景としています。さかのぼると、江戸時代に川村孫兵衛が北上川改修工事を行ったことを契機に石巻が多いに栄え、江戸の米の半分を石巻港から積み出していたいわば宮城の経済的拠点となっていたという歴史があります。

このような歴史をつないでいき、今後、市民や観光客が気軽に水辺に集い、街がにぎわい、人々が憩いを楽しむ。そして、将来を担う子供たちがふるさと石巻を学べることの出来る、石巻らしい水辺を創出したいという強い思いの中で、平成23年2月に策定しました。

その後、平成23年3月11日に発生した東日本大震災を踏まえて、災害復旧事業や復興に向けたまちづくりが始まっています。

本計画は、当初策定した計画の骨格を継承しつつ、復旧・復興に向かって整備される新たな堤防・護岸等を活かし、背後のまちと水辺のつながりを生み出し、新たな魅力をもった「まち」を構成する要素の一つとしてプロムナードの整備の方向性を検討するとともに、ルート・拠点の利活用方策について見直しを図ったものです。

※拠点Bは、旧計画の拠点A、B、Eを集約

プロムナード計画見直しのルートと拠点位置

目　次

※本計画案に記載のルート及び拠点の名称は案(仮称)であり、今後、公募等により親しみやすい呼称しやすい名称を決める予定。

1_計画の策定にあたって　1頁
2_計画策定の経緯　2頁
3_状況の変化に応じた計画の見直し　3頁
4_プロムナードルート及び拠点の選定　4頁
5_雲雀野海岸のルート、拠点、ポイント　5頁
5-1　雲雀野海岸のポイント　5頁
5-2　ルート①:「太平洋を眺める潮風のルート」　6頁
5-3　拠点B:「鎮魂と祈りと絆の杜／水上交通拠点」　7頁
6_旧北上川左右岸下流のルート、拠点、ポイント　8頁
6-1　旧北上川左右岸下流のポイント　8頁
6-2　ルート②:「旧北上川と石巻湊ルート」　9頁
6-3　拠点B:「鎮魂と祈りと絆の杜／水上交通拠点」(再掲)　(7頁)
6-4　拠点C:「食彩・感動いしのまき」　11頁
6-5　拠点D:
「『石巻の歴史』と『水と共に生きた文化』を伝えるシンボル空間」　12頁
6-6　ルート③:「居住と産業が隣接した憩いのルート」　13頁
7_旧北上川上流のルート、拠点、ポイント　14頁
7-1　旧北上川上流のポイント　14頁
7-2　ルート④:「川の風を楽しむルート」　15頁
7-3　ルート⑥:「スポーツと学びのルート」　16頁
7-4　拠点F:「旧北上川水辺広場」　17頁
8_北北上運河のルート、拠点、ポイント　18頁
8-1　北北上運河のポイント　18頁
8-2　ルート⑤:「運河ルート」　19頁
8-3　拠点G:「水辺の交流広場」　20頁
8-4　拠点H:「水と緑と子供たちの広場」　21頁
9_サイン計画について　22頁
10_プロムナード計画の避難の考え方　25頁
11_具体化に向けた取り組みの提案　27頁
(参考資料) 関連計画の概要　28頁

2. 計画策定の経緯

（１）計画策定の背景・目的

- 石巻には、悠々とした流れを感じる旧北上川や近代日本開拓の息吹を感じる北北上運河（貞山運河）、潮風を感じ往来する船舶を眺められる雲雀野海岸などの貴重な水辺空間があり、水運で栄えた石巻の顔、そして観光資源である。
- しかし、これら水辺空間は、歩行者が安全で快適に歩くための散策道が整ってないことや、地域資源が十分に活用されていない等の問題や課題があり、市民や観光客が気軽に水辺に近づき散策を楽しめる環境にはなっていない。
- そのため、水辺のすばらしさを感じ、安全で快適に散策できる「いしのまき水辺の緑のプロムナード」を整備そして水辺の利活用の促進を図るものである。

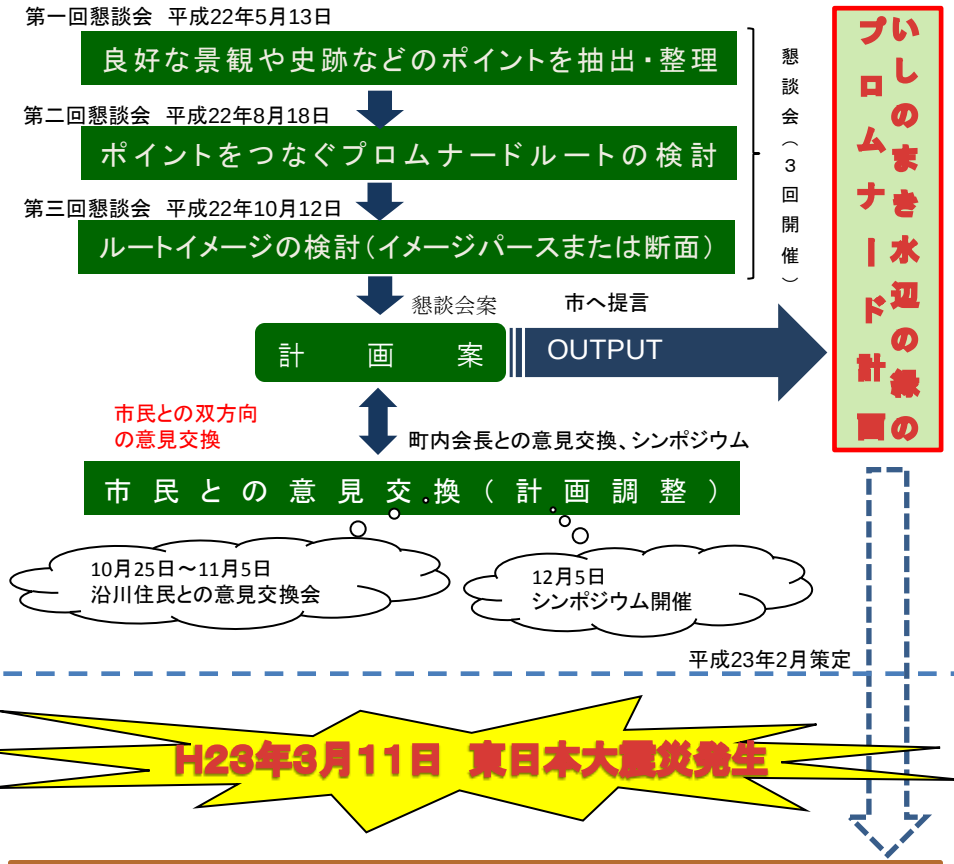
（２）計画の目的と期待する効果

① 市民や観光客が気軽に水辺を楽しみながら歴史文化等を知る。
② 将来を担う子供たちに旧北上川との関わりを学び知ってもらう。
③ 人々の憩いと健康の増進。
④ 中心市街地に賑わいを取り戻し、観光振興などを期待。

【当初計画の前提】
- 中心市街地を囲む水辺空間（雲雀野海岸～旧北上川～北上運河）を計画範囲とする
- 計画目標を概ね10年後とし、プロムナードのイメージや断面についても10年後の姿をイメージ
- 気軽に水辺に親しむ計画のため、水上利用の検討は行わない
- 整備等の方向性を定めた計画（具体的な計画やスケジュールは無い）
- 計画に記載の整備・管理・利活用は、国・県・市・民間・NPOや市民団体・市民等を範囲とする

（３）当初計画策定までの流れ

当初計画は、平成22年度に合計3回の計画策定懇談会を開催し、計画案を作成するとともに、市民との意見交換会やシンポジウムを開催し、計画案を修正して計画を策定した。
懇談会メンバーは、旧北上川や北北上運河で活動を行っている市民団体、石巻湊の歴史、観光振興、女性や若者の視点などから6名の委員を選任し、行政担当として国土交通省、宮城県等から4名にオブザーバーとして参画いただいた。　（委員及びオブザーバー　計10名）



計画策定直後に東日本大震災が発生し、予定していたプロムナード計画の具体化や、堤防整備に合わせまちづくりと一体となった整備に向けた動きが中断した。

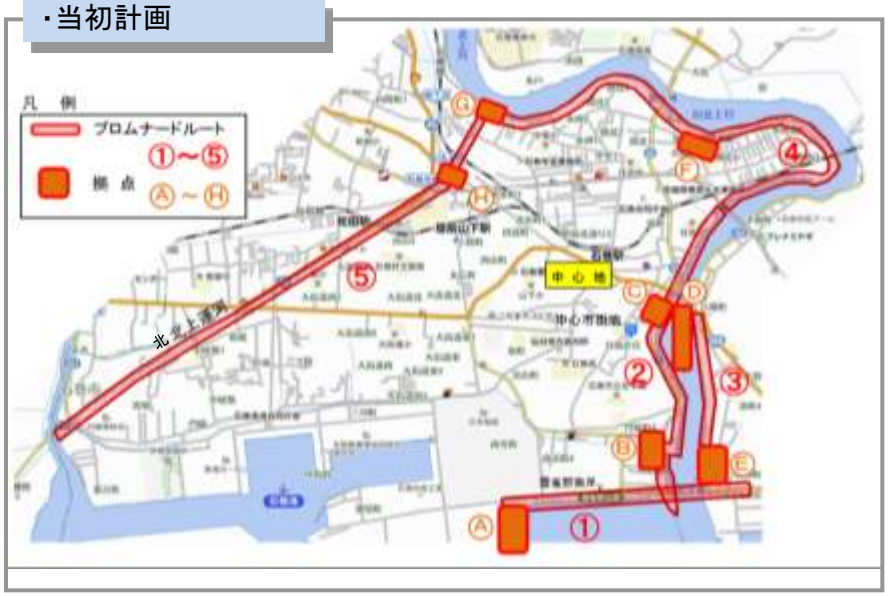
3. 状況の変化に応じた計画の見直し

計画の見直しの概要

- 震災復興基本計画に基づく堤防沿いの土地利用、各地区の特徴等を踏まえプロムナード計画のルート・拠点に期待される役割を整理し、当初計画の骨格は継承しつつ、以下のようにプロムナード計画（拠点及びルート）の一部見直しを行った。

・拠点B　：震災復興基本計画に基づく祈念公園構想を基に旧計画の拠点A（臨港緑地）と拠点E（マリーナ）を集約
・拠点D　：中瀬に加え、住吉公園や雄島付近も一体となった歴史・文化的拠点として改めて位置付け
・ルート③　：震災復興基本計画に基づく居住と産業の土地利用を踏まえ、人の集いと憩いの拠点機能を合わせ持つルートとして役割の変更
・ルート⑥　：新たな堤防整備に合わせて新規ルート設定

・当初計画



雲雀野海岸（日和大橋を含む）
① ルート「雲雀野海岸・日和大橋」
Ⓐ 拠　点「石巻臨港緑地」

旧北上川右岸下流（河口～門脇～住吉）
② ルート「旧北上川右岸下流」
Ⓑ 拠　点「文化センターと離島航路待合所」
Ⓒ 拠　点「旧丸光ビル周辺」
Ⓓ 拠　点「中瀬・内海橋」

旧北上川左岸（川口～湊～八幡）
③ ルート「旧北上川左岸」
Ⓔ 拠　点「ヤマニシ造船所跡地」

旧北上川右岸上流（水明～大橋～運河交流館）
④ ルート「旧北上川右岸上流」
Ⓕ 拠　点「大橋地区」

北北上運河（石井閘門～釜閘門）
⑤ ルート「北北上運河」
Ⓖ 拠　点「運河交流館」
Ⓗ 拠　点「水と緑と子供たちの広場」

・見直し計画

※拠点Bは、旧計画の拠点A、B、Eを集約
※石巻港における客船寄港推進との連携と、市街地を環で囲むネットワーク導線を追加考慮

雲雀野海岸（日和大橋を含む）
① ルート「雲雀野海岸・日和大橋」
Ⓑ 拠　点「祈念公園と水上交通拠点」

旧北上川右岸下流（河口～門脇～住吉）、旧北上川左岸下流（川口～湊～八幡）
② ルート「旧北上川右岸下流」
Ⓑ 拠　点「祈念公園と水上交通拠点」
Ⓒ 拠　点「観光と賑わい（中央街区周辺）」
Ⓓ 拠　点「石巻の歴史と文化の伝承（中瀬・住吉公園）」
③ ルート「旧北上川左岸下流」

見直し

旧北上川上流（水明～運河交流館・石巻専修大学）
④ ルート「旧北上川右岸上流」
⑥ ルート「旧北上川左岸上流」→ 新設
Ⓕ 拠　点「大橋地区」

北北上運河（石井閘門～釜閘門）
⑤ ルート「北北上運河」
Ⓖ 拠　点「運河交流館」
Ⓗ 拠　点「水と緑と子供たちの広場」

【見直し計画の前提】
- 計画目標は震災復興基本計画に基づく関係事業の目標と同一とする。
- 整備等の方向性を定めたものであり、具体的な計画やスケジュールは関係事業と調整を図る。

4. プロムナードルート及び拠点

いしのまき水辺の緑のプロムナード見直し計画案
ルート及び拠点（6ルート6拠点）

※拠点Bは、旧計画の拠点A、B、Eを集約
※石巻港における客船寄港推進との連携と、市街地を環で囲むネットワーク導線を追加考慮

雲雀野海岸（日和大橋を含む）

① ルート「雲雀野海岸・日和大橋」
Ⓑ 拠　点「祈念公園と水上交通拠点」

旧北上川右岸下流（河口～門脇～住吉）
旧北上川左岸下流（川口～湊～八幡）

② ルート「旧北上川右岸下流」
Ⓑ 拠　点「祈念公園と水上交通拠点」
Ⓒ 拠　点「観光と賑わい（中央街区周辺）」
Ⓓ 拠　点「石巻の歴史と文化の伝承（中瀬・住吉公園）」
③ ルート「旧北上川左岸下流」

見直し

旧北上川上流（水明～運河交流館・石巻専修大学）

④ ルート「旧北上川右岸上流」
⑥ ルート「旧北上川左岸上流」→ 新設
Ⓕ 拠　点「大橋地区」

北北上運河（石井閘門～釜閘門）

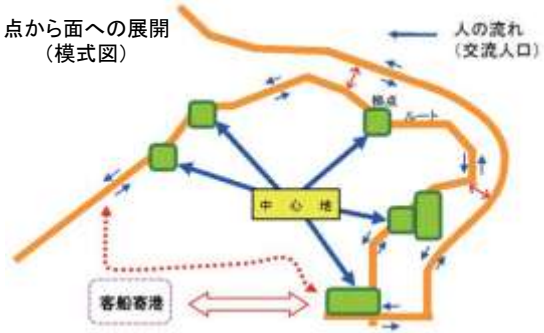
⑤ ルート「北北上運河」
Ⓖ 拠　点「運河交流館」
Ⓗ 拠　点「水と緑と子供たちの広場」

水辺の緑のプロムナードによる 中心市街地活性化の推進

（点から面への交流人口の広がり）

- 駅や市役所などの中心地から、中瀬などの「拠点」へと人の流れをつくり、さらに「拠点」からルートを通って次の「拠点」や、ルートの往復により、中心地の点を面的な広がりへと展開。
- 展開にあたっては、拠点の魅力を高めるとともに、ルートを歩いてみたくなるようなイベントなどの企画が大切（例えば歴史探訪ツアーなど）
- 拠点には、機能として「トイレ」「休憩施設」「駐車場」「バス停（近傍）」を備える必要性（ルート・拠点ごとに特徴あり）。
- 中心地から拠点への移動については、みんなが利用でき、環境にやさしい自転車での移動や回遊も検討

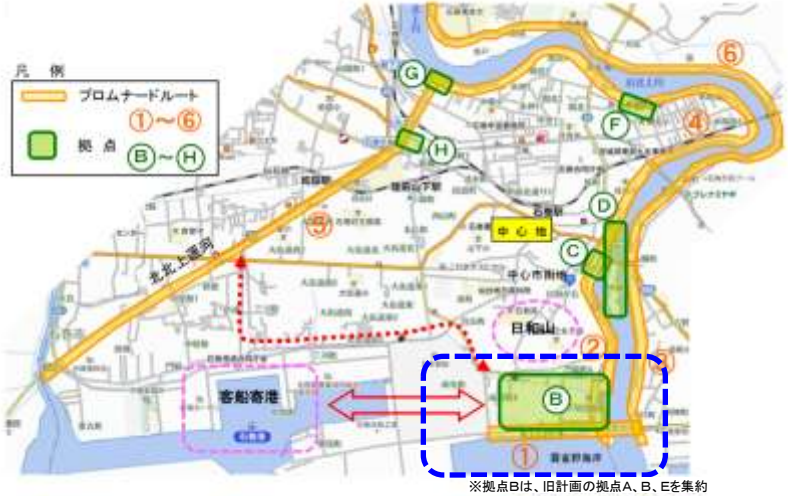
点から面への展開
（模式図）



ルート・拠点と中心地の連携

5. 雲雀野海岸のルート、拠点、ポイント

雲雀野海岸の位置



※拠点Bは、旧計画の拠点A、B、Eを集約

5－1　雲雀野海岸のポイント

- 雲雀野海岸は、石巻湾が望める素晴らしいロケーションであり、展望台からは往来する船や遠くの島々が眺められる。特に日和大橋からは、雄大な石巻湾と市街地・旧北上川が眺望。
- 波の音そして潮風が心地よい。
- 臨港道路は交通量が多い。海岸では震災後も釣りをする人の姿を見かける。
- 津波によって甚大な被害を受けたことから、新たな海岸防潮堤が整備される。
- 雲雀野海岸の沿川には、石巻の歴史そして危険と隣合わせだった千石船の船乗りたちの思いを今に伝えている「濡れ仏」や巽（たつみ）神社や恩賜燈があったが、津波により損傷・消失しており、これらの歴史を伝えていく必要がある。

雲　雀　野　海　岸

震災前の雲雀野海岸

海岸の史蹟等（津波により流出・損傷）

濡れ仏（損傷）

▲石巻絵図の濡れ仏

河口港石巻港の水難防止のため作られた燈台で、現在地より川側にあったが移設されたものという

注）碑にみえる北上川改修事務所 今泉政勝氏は、明治44年～昭和9年に行われた北上川改修工事を担当した北上川改修事務所（昭和9年7月31日廃止）の工手であり、昭和9年度は同事務所石巻工場（石巻市門脇町海岸通）勤務であった
石巻工場は昭和6年～9年に施工された旧北上川河口導流堤を担当していた

恩賜燈

たつみ
巽神社（流出）

震災後の雲雀野海岸と臨港道路

臨　港　道　路

交通量が多い

被災した雲雀野海岸の展望台

日　和　大　橋

日和大橋は市街地や海を一望できるすばらしい景観が楽しめる

ルート①

５－２　雲雀野海岸・日和大橋　プロムナードルート

ルートテーマ

海に思いを馳せる
「太平洋を眺める潮風のルート」

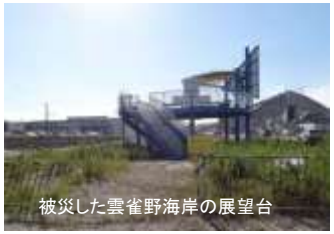
ルート方向性

- ●海岸防潮堤に沿って、太平洋を望み、潮風を感じることのできるルート
- ●祈念公園と連携しながら、海岸防潮堤に沿って、太平洋の眺望を重視した視点場を設定する。
- ●客船寄港時の来訪者や、祈念公園への来訪者も利用する散策の場として考慮。
- ●背後の祈念公園と一体となった散策等の利用を可能とする。

水辺の現況

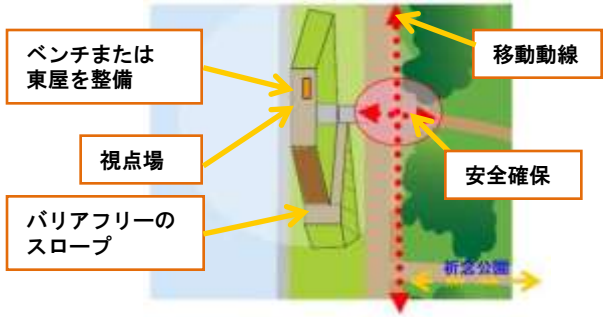
- ●雲雀野防波堤は、震災を踏まえて新たな海岸防潮堤として整備予定。
- ●防潮堤沿いは被災し、散策路が無いため、海岸に沿っての散策は厳しい状況。
- ●展望台も被災したが、防潮堤からは天気が良い日に往来する船や遠くの島々が遠望できる。

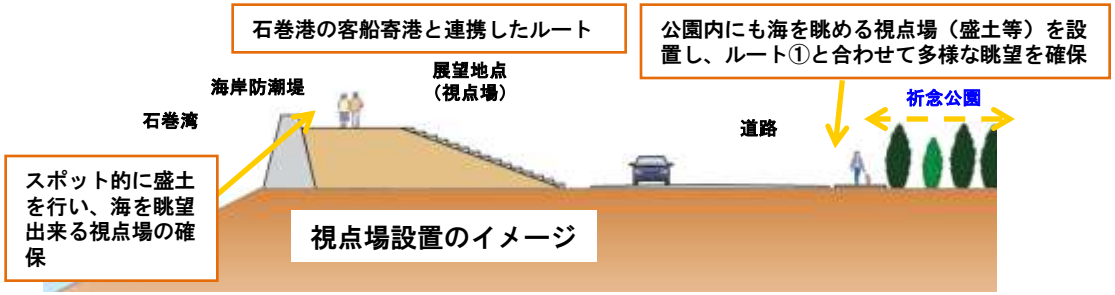
雲雀野海岸の状況。被災し散策路は無く雑草が茂っている。


被災した雲雀野海岸の展望台

ルートイメージ

- 海岸防潮堤防に沿って、海を眺める視点場を設ける。
- プロムナードとしてのルートは公園敷地内とも連携させ、海辺を眺める視点場は祈念公園とも分担して多様な眺望を創出する。
- 安全を確保しつつ、ルート①と祈念公園の往来もできる設定を考慮





※堤防等はイメージであり今後の検討により変更があり得ます。

利活用方策

- 石巻湾からの心地よい風が吹き、海岸に打ち寄せる波の音を聞きながら、往来する船や遠くの島々を眺められ、景色を眺めながらくつろげる場所として利用する（⇒ベンチなど休憩施設を設置）

海辺を眺められるベンチのイメージ

- 利用を推進する観点から、本ルートと祈念公園を利用したウォーキング講習会やレクリエーションなどを企画実施する。
- サイクリングロードとしても利用可能なようにする。
- 臨港道路の横断は、安全性が確保できるように検討する。

海辺のウォーキングイメージ

- ルートの維持管理や利活用を推進するため、市民団体による清掃活動やイベント企画・実施などを推進する。
- 石巻港の客船寄港やイベントと祈念公園を連携し、訪れる乗客に、この地で起きた震災と石巻の復興の歩みを知ってもらう。

清掃活動イメージ

客船寄港イメージ

港湾感謝祭イメージ

実現に向け

- ●県で整備する海岸防潮堤や復興基本計画に基づく祈念公園と調整し、海を眺望できる視点場の確保を検討。
- ●背後の道路や祈念公園整備等と合わせ、ルートの周遊性・連続性・安全性を確保する。
- ●利用者・管理者等の間で施設や空間の利用ルールや管理区分等を調整していく。

５－３　プロムナード拠点　祈念公園と水上交通拠点

拠点 B

拠点テーマ

「鎮魂」「祈り」「震災アーカイブ」「復興支援に対する感謝」
及び「離島航路との結節点」「マリーナ機能」「客船寄港との連携」等
「鎮魂と祈りと絆の杜／水上交通拠点」

拠点方向性

以下の2つの機能が隣接した一大拠点とする。

■公園：震災の記憶を伝承する鎮魂・祈りの公園ができることから、鎮魂・祈り・震災アーカイブ・復興支援に対する感謝をテーマとした空間となる。

■水上交通・水面利用：離島航路との結節点、船舶を係留するマリーナ機能、客船寄港との連携等、水上交通や水面利用の拠点と位置づけ、船のある風景も残る空間となる。

拠点の現況

- 文化センターや市立病院周辺は津波により大きく被災しており、祈念公園として整備予定の区域に入っている。
- 内港地区は、震災後も引き続き離島発着所として利用されている。

被災した文化センターと
石巻市立病院

再スタートした離島発着所

拠点イメージ

■祈念公園
- 震災の記憶を伝承する、鎮魂・祈りの場となる。
- 鎮魂と慰霊のモニュメントや催事の広場、伝承の施設等が考えられる。
- 地域の絆を深める場所として機能するように、イベント広場や、子供も楽しめる施設も必要。
- 潮風に強い樹種の植樹帯などの工夫をする。

■水上交通、水面利用
- 離島航路発着所の復旧と合わせて水辺の拠点整備で機能拡大も可能
- プレジャーボート等を収容するマリーナ機能を確保する。
- 停泊する船舶や日和大橋や河口などを眺めるビューポイントとしても楽しめる場所とする。

広場とモニュメントのイメージ
（北海道奥尻町　徳洋記念緑地公園）

レクリエーション広場でのイベント等

マリーナイメージ

離島への定期航路の発着所

※堤防等はイメージであり今後の検討により変更があり得ます。

※拠点Bは、旧計画の拠点A、B、Eを集約

利活用方策

■祈念公園
- 3.11の記憶を後世に伝え、震災により亡くなった方の慰霊祭等の開催。
- 鎮魂と祈りの空間として常に開放された空間や施設の立地
- 親子や、地域の絆を強くすることを目的に、オープンスペースを活用した各種イベントの開催ができる。
- 築山や高台があれば、海や川、周辺の眺望も得られるポイント、避難にも活用できるスペースの確保も可能。

イベントイメージ

■水上交通、水面利用
- 離島航路発着所は、離島への玄関口であるとともに、島から戻ってきた観光客が思い出の品を買い求める場所としても活用できる。また、拠点内に石巻の名産品からお土産、絵葉書などを扱う観光センター的な機能も想定できる。
- 従来よりプレジャーボート等の不法係留船が川沿いに見られており、船舶の収容を図る。
- プレジャーボートの収容場所では、船や海洋レクリエーションについて学べる学習会の開催などが考えられる。
- 広場、築山などの工夫や、釣りを楽しんだり、運動を楽しむ場所としても活用する。
- ルートや拠点を巡る散策等が可能なように、プロムナードの全体や現在位置がわかるように案内看板やサインを整備する。

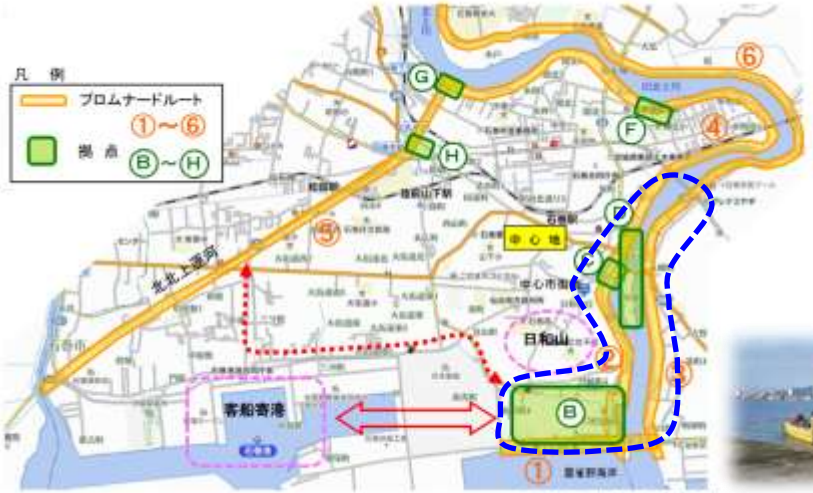
水辺での釣りイメージ

実現に向けて

- 国で整備する河川堤防や復興基本計画に基づく祈念公園、及び離島航路等と調整を図り、プロムナード計画に基づく施設の配置や利活用の工夫について具体を検討していく。
- 利用者・管理者等の間で施設や空間の利用ルールや管理区分等を調整していく。

6. 旧北上川左右岸下流のルート、拠点、ポイント

旧北上川左右岸下流の位置



※拠点Bは、旧計画の拠点A、B、Eを集約

昭和時代に門脇と湊を往復していた渡船

6－1 旧北上川左右岸下流のポイント

- 門脇から住吉界隈は、舟運時代に入船出船そして蔵が立ち並び栄えた地域であり、ところどころに当時の面影が残る地域であった。（石巻絵図に当時の繁栄ぶりが描かれている）。
- 震災により川沿いや中瀬は壊滅的な被害を受け、無堤地区だった旧北上川沿いには新たに堤防が整備される。
- 震災前の川沿いにはプレジャーボートやヨットなどの船舶が停泊していたが、現在は既に係留船が川沿いに戻りつつある（不法係留船）。
- 住吉公園は、昔からの石巻を代表する観光スポットであり、「袖の渡り」や「芭蕉の参詣」などの物語を今に残している。
- 中瀬は、石巻を代表する観光ポイントとして石ノ森萬画館をはじめ多くの観光施設があり、家族連れなどで賑わっていたが、津波により壊滅的な被害を受けており、再生が必要となっている。
- 左岸側はかつては漁港が立地し、造船のまちの姿が今に残されている場所であった。震災後は新たに産業集積地区及び居住地域となる。

石巻絵図

震災後の内港地区と係留船

震災前後の中瀬

旧北上川右岸

震災前の中瀬のイベント

内海橋下流の復興マルシェの賑わい

雄島と住吉公園

震災後に残った造船所

6－2　旧北上川右岸下流（河口～門脇～住吉）プロムナードルート

ルート ②

ルートテーマ

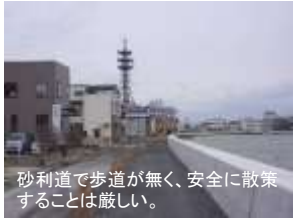
いにしえの石巻湊と賑わいを訪ねる
「旧北上川と石巻湊ルート」

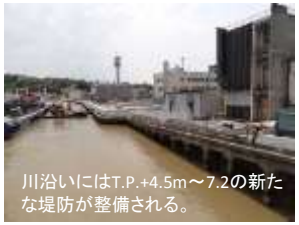
ルート方向性

- ●人々が集い、安全に快適に水辺と緑を感じながら散策できるルート
- ●中心市街地からの観光周遊やプロムナードの各拠点間の回遊性を確保するとともに水辺に近づきやすいように配慮
- ●移動途中に休憩し、水辺の景色を眺められるように配慮
- ●プロムナードから親水空間に行き易いように工夫する。（階段やスロープ）
- ●水辺に親しむ・変化をもたせる・植栽等などの工夫をする。

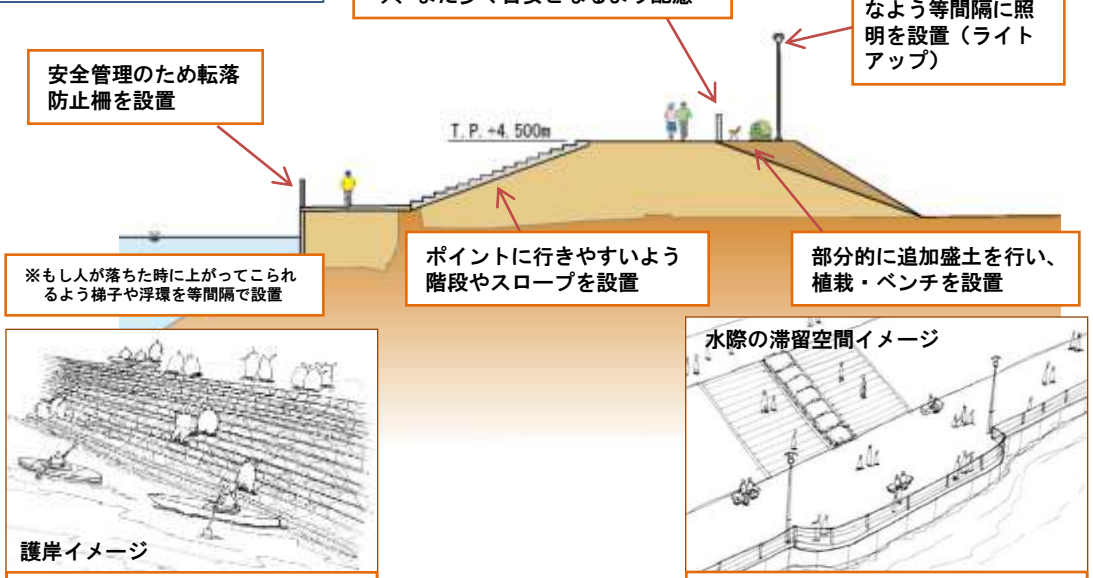
水辺の現況

- ●現在は満潮時の浸水被害に対して、応急対応として浸水防止壁が整備されており、今後は川沿いに地震・津波・高潮に対して粘り強い堤防が整備される。
- ●河岸の道は内海橋から門脇方面へ行く幹線路のため交通量が多く、また現状は歩道が無いため安全に歩くことは厳しい。


砂利道で歩道が無く、安全に散策することは厳しい。


川沿いにはT.P.+4.5m～7.2の新たな堤防が整備される。

ルートイメージ



※堤防や護岸はイメージであり今後の検討によって変更があり得ます。

実現に向け

- ●国で整備する河川堤防と調整を図り、プロムナード計画に基づく施設の配置計画や水辺の工夫等、具体を検討していく。
- ●利用者、管理者等の間で施設や空間、スペースの利用ルール・管理区分等を調整していく。

利活用方策

- 門脇や住吉地区は、江戸から明治にかけて千石船やひらた船が接岸した石巻湊の中心地であり、被災を免れた史跡を探訪することができる。
- 石巻の既存の散策路や堤防上では散歩やウォーキングを楽しんでいる方を多く見かける。休憩施設や親水空間へ行きやすい工夫を整備し、住民の憩いの場を創出する。

史跡探訪のイメージ

ウォーキングイメージ

- 水辺の緑を創出・管理するため、町内会等により水辺愛護会（仮称）を結成し、河川清掃や植栽管理（植栽ポット）を推進。

植栽ポットイメージ

河川清掃イメージ

- 水辺を散策しながら旧北上川や水辺の環境などを学べるような施設を検討。
- 人々に安らぎを与える景観やデザインに配慮
- 中央街区付近は観光拠点の場として歩きやすい木材チップ等の舗装を施し、夜間の安全にも寄与する照明やフットライト等を検討する。
- ルート・拠点間の移動を容易にするため、安全を確保した上でサイクリングロードとしても活用する（レンタサイクルの発着所を整備）

憩いの空間イメージ

夜間のプロムナードイメージ

ルート ②

ルートテーマ

いにしえの石巻湊と賑わいを訪ねる

「旧北上川と石巻湊ルート」

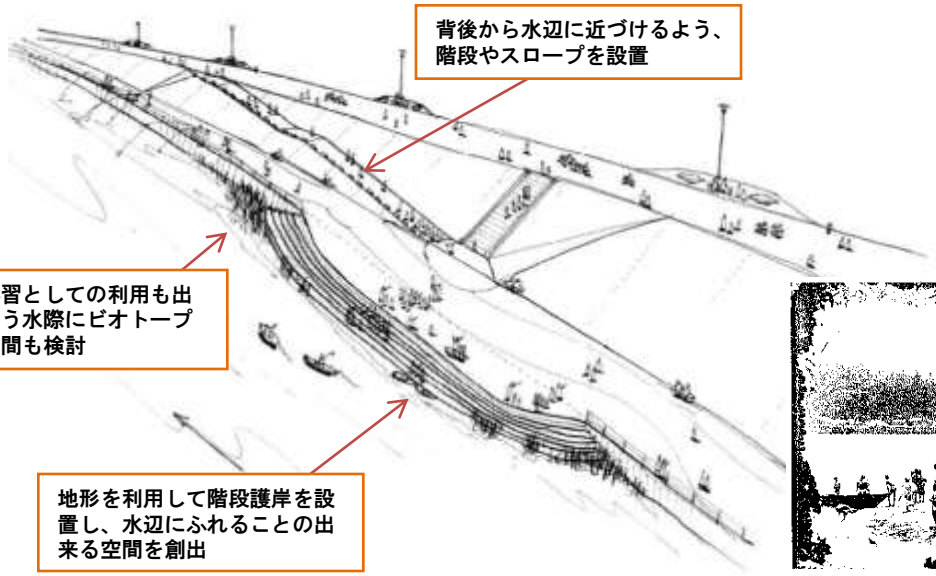
利　活　用　方　策

- 小学校の環境学習の場（水辺の楽校）として、旧北上川の歴史や、河川環境を学ぶイベント等の開催を検討
- カヌー教室・川下りイベントや学校の漕艇部等の発着所としての活用を検討

環境学習の例（生物調査）

親　水　空　間　イ　メ　ー　ジ

- 例えば、住吉小学校付近に水際に突き出した部分が残される空間がある。これを利用して、階段護岸の設置等により親水空間を創出するとともに、小学校の環境学習等としての利用も可能とする。



親水空間の創出イメージ

現　況

※堤防等はイメージであり今後の検討により変更があり得ます。

写真提供　熊井　英治　　大正初期の北上川右岸　住吉小学校前

当時、北上川で泳ぐ住吉小学校の児童達（昭和初期）

大正・昭和初期の住吉小学校での河川利用の様子

- 住吉周辺の水辺では、大正から昭和初期にかけて住吉小学校の児童が学校前の河原で水泳を楽しんでいた歴史がある。

「石巻地方研究 第4号」「目で見る石巻・桃生・牡鹿の100年」より

６－４　プロムナード拠点　観光と賑わい（中央街区周辺）

拠点 Ⓒ

拠点テーマ

雄大な旧北上川を眺めながら石巻の食を堪能する
「食彩・感動いしのまき」

拠点方向性

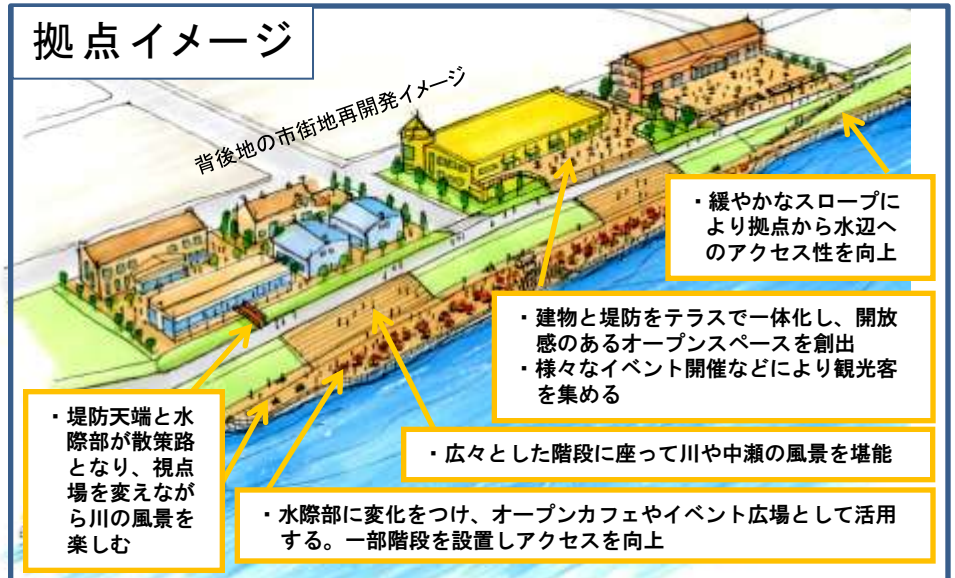
- ●プロムナードの中核としての拠点であり、雄大な旧北上川を眺めながら石巻の食を味わうなど観光的な要素を含んだスポット（対岸の中瀬と連携することで拠点性を向上）
- ●中央街区は、堤防整備を活かした再開発を検討していることから、プロムナードとしては人々が集える空間、回遊の中心とするための工夫・配慮を行う。

水辺の現況

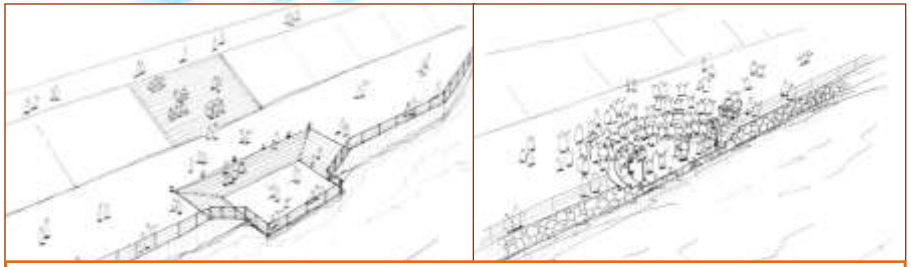
- ●津波により川沿いが被災し、今後、新たな堤防が整備される。
- ●中央街区は、石巻中心市街地活性化基本計画の開発拠点となっており、復興計画でも中心市街地活性化に向けた整備を検討している。現在、仮設店舗ではあるが、川沿いに「石巻まちなか復興マルシェ」が整備されている。

内海橋下流の復興マルシェ

拠点イメージ



※上図は堤防背後の再開発検討地区から水辺に至るプロムナード計画のイメージであり、今後の検討により変更があり得ます。



水辺の利活用イメージ：水辺の賑わいを創出するための水際部の工夫を行う。

利活用方策

- ●堤防の天端や、水辺にオープンスペースを創出することで、川を眺めながら石巻のおいしいものを堪能したり、人々が集うことのできるイベント等を開催することが出来る。

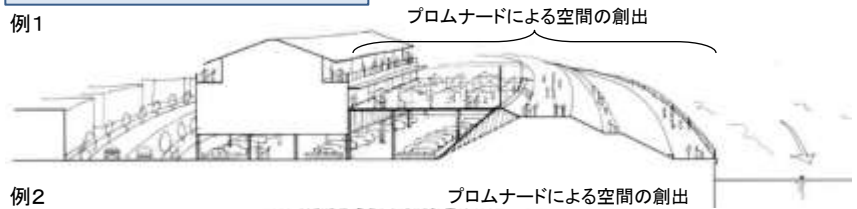
広島 京橋川　水辺のオープンカフェの例

水辺のミニコンサートのイメージ

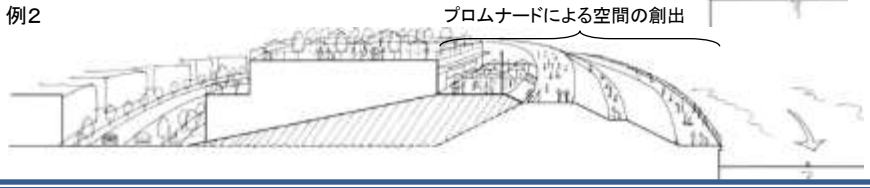
- ●周辺には歴史・文化等の史跡が点在しているため、集まってきた人たちに、石巻の歴史・文化を伝える案内看板やサインを設置。
- ●駐車場等、集客するための関連施設整備を行う。
- ●昔の風景を偲ばせる渡し船や定期船、船着場などを小規模でも再現し、人々の回遊や移動手段として活用する。
- ●背後地の再開発と連携し、堤防と一体となった整備により、川を眺めながらゆったりカフェや食事を楽しめるような空間を創出する。

堤防と背後地の接続イメージ

例1



例2



実現に向けて

- ●国で整備する河川堤防及び背後の再開発事業との調整を行い、堤防と建築物との接続部等での空間創出等、プロムナードによる整備内容、整備後の管理体制を具体化する。
- ●利用者、管理者等の間で、オープンスペースの利活用方策や管理区分等を調整していく。
- ●地域の意見も踏まえながら水辺へのアクセスや水際の工夫、利活用等を具体化していく。

拠点 D

拠点テーマ

6－5 プロムナード拠点 石巻の歴史と文化の伝承(中瀬・住吉公園)

川と共に暮らして「かわみなと・石巻」の歴史と文化の伝承

「『石巻の歴史』と『水と共に生きた文化』を伝えるシンボル空間」

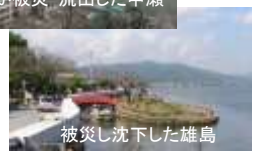
拠点方向性

●石巻の歴史の面から、中瀬と右岸の住吉公園・雄島も含めた拠点として設定する。
なお本拠点は、拠点C及びルート③との連携により、多くの観光客や市民が集まり、回遊する拠点となる。
●中瀬は、千石船を建造してきた歴史、湊町の記憶や暮らしの面影、歴史や文化を感じられる空間として拠点性を高める。
●住吉公園・雄島は、数々の歴史・史跡があり、中瀬と一体となった拠点とする。

拠点の現況

●中瀬は、震災前は石巻の観光スポットであったが、津波により壊滅的な被害を受け、施設の多くが被災・流出した。
●今後、川沿いの堤防が整備されることに伴い、中瀬は水辺に近づける貴重な空間。
●住吉公園・雄島は、数々の歴史・史跡があるが、津波により被災しており、「石巻」の地名の由来といわれる「巻石」が見えなくなっている。

多くの施設が被災・流出した中瀬


被災し沈下した雄島

利活用方策

●プロムナード全体そして観光としての拠点性が高まる様な整備を検討する(例：中瀬を一周できる散策路の整備と散策ツアーの企画など)

中瀬からの素晴らしい水辺の景色

第四回北上川石巻湊公開講座による歴史探訪会

●中瀬は石巻・北上川観光の重要なポイントであり、プロムナードの拠点(集い、歴史探訪の基点)でもあることから、石巻の歴史・文化のシンボル的なモニュメント設置や史跡を解説する施設や案内サインの設置を検討。
●北上川舟運の発着所や渡し等の舟運の歴史を集積し、それらの伝承と学びの場としての活用も考えられる。また、舟運の再生などによる来訪者の回遊を検討する。
●市民との協働による歴史・文化の集積、ボランティアガイドによる歴史・文化の伝承を推進する。

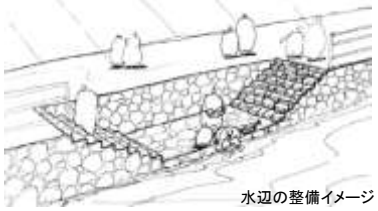
舟運と造船の歴史を偲ぶモニュメント

実現に向けて

●復興計画に基づく中瀬の公園整備と連携し、中瀬と左右岸の地区との交流や回遊などの利活用を、関係機関や地域とともに一体となって検討していく。

拠点イメージ

■住吉公園(雄島)周辺
・昔は渡し船の発着場所として利用されており、「袖の渡り」という歌枕になるほどの場所である。また、生活の場としても水辺に人々が集まっていた。
・水辺との繋がりを重視した空間を創出するとともに、「雄島」や「巻石(まきいし)」を再生する。


水辺の整備イメージ

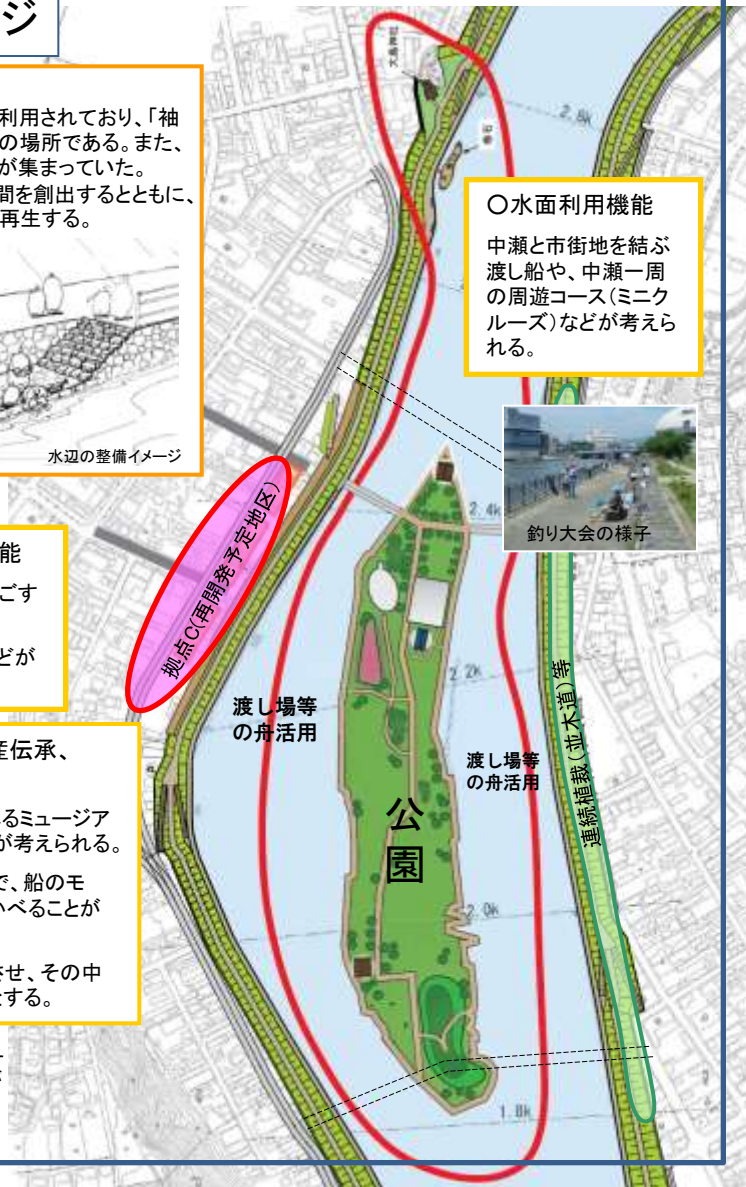
○水面利用機能
中瀬と市街地を結ぶ渡し船や、中瀬一周の周遊コース(ミニクルーズ)などが考えられる。

釣り大会の様子

○休憩・運動機能、親水機能
水辺に親しみながらゆっくり過ごすことができる場の創出
浅瀬をつくり、水遊びや釣りなどができる場所を再現

○歴史文化展示、歴史遺産伝承、歴史体験機能
・石巻の歴史と文化を感じられるミュージアム機能を持った島にすることが考えられる。
・中瀬は造船の歴史にちなんで、船のモニュメントや模型、水辺に浮かべることが考えられる。
・昔の街並みや賑わいを感じさせ、その中で歴史や文化を学べる空間とする。

※堤防や公園、橋等の施設はイメージであり今後の検討により変更があり得ます。



ルート ③

6－6 旧北上川左岸下流（川口～湊～八幡） プロムナードルート

ルートテーマ

石巻湊の礎と漁港の賑わいを今に伝えつつ、
新たに産業と居住集積を考慮した拠点的ルート
「居住と産業が隣接した憩いのルート」

ルート方向性

- ●安全に快適に水辺と緑を感じながら散策できるルート
- ●背後地は産業集積する地区及び居住地域となり、職・住の人口を抱えることから、人々の憩いの場となるよう、連続した植栽空間を生みだし、活用することでルートが拠点性を持つよう配慮
- ●移動途中に休憩し、水辺の景色を眺められるように配慮
- ●堤防背後から親水空間に行き易いように工夫（階段やスロープ）

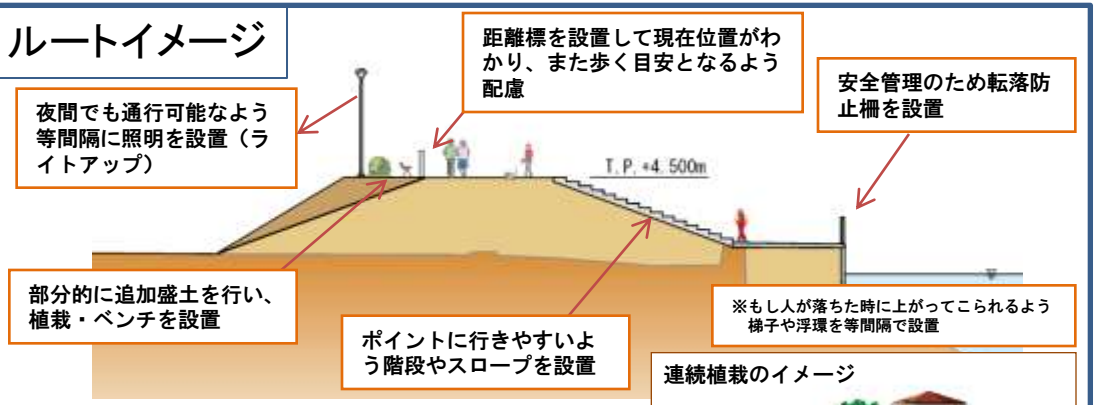
水辺の現況

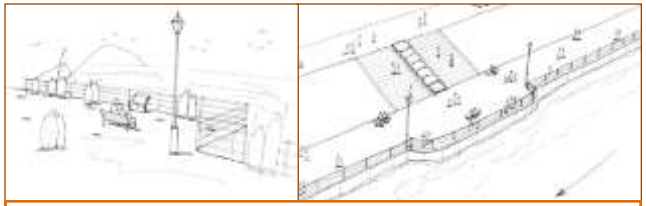
- ●震災後の浸水防止のため川沿いに浸水防止壁を整備。今後、地震・津波・高潮に対して粘り強い堤防が整備予定。
- ●川沿いは津波により被災し、復興計画では、産業ゾーンと居住ゾーンとして再生される予定。

被災状況と震災後に設置した浸水防止壁

川沿いの道は車が通るため、安全に散策することが厳しい

ルートイメージ





水際の滞留空間利用イメージ：水辺の景観を楽しめるよう部分的に滞留空間を設置・水辺の変化を持たせる

連続植栽のイメージ

- ・背後の土地を活用して桜堤や連続する植栽、並木道等により人々の集える空間と景観に配慮
- ・連続する植栽により生み出される空間では屋台など集客のためのスペースとしても活用し、ルートそのものが拠点性を持つよう工夫

※堤防や護岸等はイメージであり今後の検討により変更があり得ます。

利活用方策

- 復興計画で産業集積地区と居住地域として予定されていることから、職・住合わせた住民の憩いの場として利用していく。
- 湊地区は、石巻湊としての歴史や昭和に漁港があった時代の賑わい、さらに造船業が営まれていたことなどから、石巻市の産業を学ぶエリアとして活用も考えられる。（案内板の整備により当時の産業の歴史を紹介していく）
- 連続した植栽空間（並木道等）を設け、人々の集いと憩いの空間を創出。屋台や出店など集客空間としても年間を通して活用し、拠点性を持つルートとして利活用を図る。

連続した植栽空間のイメージ

- 水辺の緑を創出・管理するため、町内会単位（沿川企業含む）等で水辺愛護会（仮称）を結成し、河川清掃や植栽管理を推進する。
- ルート・拠点間移動を容易にするため、安全を確保してサイクリングロードとしても活用する（レンタサイクルの発着所を整備）。
- 浮桟橋の設置による、中瀬や対岸との渡しや定期船運行の可能性を検討していく。

実現に向けて

- ●国で整備する河川堤防と調整を図り、プロムナード計画に基づく施設の配置計画や水辺の工夫等、具体を検討していく。
- ●利用者・管理者等の間で堤防天端や水辺の利用ルール・管理区分等を調整していく。

7. 旧北上川上流のルート、拠点、ポイント

旧北上川上流の位置

※拠点Bは、旧計画の拠点A、B、Eを集約

7－1　旧北上川上流のポイント

- 右岸側の堤防上の道は、通勤通学、サイクリング、ウォーキングなど様々に活用されている。
- 堤防上からは雄大な水辺の風景を望むことができ、良いロケーション。
- 大橋地区の広域消防署があるところでは、震災前は毎年石巻川開き祭りの花火大会が開催される場所であり、毎年多くの観客が訪れていた。
- 広い河川敷があり、釣り人や子供たちの遊び場として利用が図られている。
- 左岸側の堤防は、震災による沈下分の堤防嵩上げが計画されている。
- 左岸側は一部無堤区間であったが、震災を踏まえて新たな堤防が整備される。

左岸堤防から見る景観

真野川合流部

様々に利用されている堤防上の道

震災前には川開き祭りの準備をする孫兵衛船の姿も見られた。

左岸堤防から見た市街地

左　岸　堤　防

震災前は川開き花火大会で利用されていた階段護岸

運河交流館付近

左岸上流の石巻専修大学と桜並木

ルート ④

ルートテーマ

7－2　旧北上川右岸上流（水明～大橋～運河交流館）　プロムナードルート

旧北上川の風と風景を楽しむ

「川の風を楽しむルート」

ルート方向性

- ●川の風と風景を楽しみながら、散策、サイクリング等ができるルート
- ●堤防上には散策路（サイクリングロード）が整備済であり、移動途中に休憩し、水辺の景色を眺められるよう配慮
- ●旧北上川の右岸河畔でも川とふれあえる河川敷があり、河川敷を使ったイベントなどの利活用が期待できる。

水辺の現況

- 石巻大橋から石井閘門までの堤防上の通路は、サイクリングや通勤通学、散歩、生活道路として利活用されている。
- 震災により地盤が沈下しており、沈下分だけ堤防を嵩上げする予定である。
- 特に、このルートから見る川は、水面の広がりを感じる素晴らしい風景を楽しむことができる（⇒途中に休憩するためのベンチ設置を検討）。
- 河川敷では、子供たちが遊んでいたり釣りを楽しんでいる人も見かけられ、レジャーとしての利活用が進んでいる。

サイクリングでの水辺散策

堤防上は安全な通学路

散策路は生活道路としても利用

河川敷は子供たちの遊び場

釣りを楽しんでいる人

ウォーキングや散歩を楽しむ人も多い

散策路からは鉄橋を通る電車（JR石巻線）が眺められる

散策路からは雄大な旧北上川を望められる
対岸は真野川水門

利活用方策

- 散策路の維持管理のため、町内会などにより水辺愛護会（仮称）を結成し、河川清掃や堤防の植栽管理を推進。

河川清掃イメージ

- 河川敷の利活用が推進されるよう、水辺をゆっくり眺められるベンチの増設やPRを推進。また川の生物・植物を調べる子どもを対象とした学習会の開催も検討。

ゆったり水辺を眺められる水辺のベンチのイメージ

環境学習のイメージ（生物調査）

- 旧北上川河畔のルートでも、河川敷がある当ルートの特性を活かし、河川敷での更なる利活用が推進されるよう、公園的な整備を検討。

北上川鉄橋付近の河川敷　今後の利活用が期待される

- 開北橋等を利用した対岸のルートとの広域的なネットワークを可能とするため、サイクリングロードや、イベント時の対岸への渡し等の活用について検討。

実現に向け	
	●国で管理する河川堤防と調整を図り、プロムナード計画に基づく施設の配置計画等、具体化を検討していく。 ●利用者・管理者等の間で施設や空間の利用ルールや管理区分等を調整していく。